

復興ボード住宅が完成

宮古できょうまで見学会

地元木材、技術を結集 ぬくもり、明るさ魅力

震災で発生した木質がれきを「復興ボード」として活用し、素材も技術も地元にこだわった復興住宅のモデルハウス完成見学会は1、2の両日、宮古市崎ヶ崎の展示場で開かれている。木のぬくもりと室内の明さが目を引く建物を一目見ようと、初日から多くの来場者が訪れた。



モデルハウスは木造2階建て一部吹き抜けで延べ床面積約110平方㍍。総額250万円の太陽光発電や太陽光給湯システム、ベレットストーブなど、装備で約2千万円(土地除く)を想定する。見学に訪れた同市向町の女性60歳は、「窓が多くて明るく、細かいところに気配りもある。仮設住宅の友人に伝えたい」と気に入っている。

同プロジェクトと連携する県立大盛岡短期大学部の内田信平准教授(建築設計)は「地元の職人や建材メーカー、建設会社が力を合

わせば大手に負けない高性能住宅ができる」と意を強調する。

展示場は同市崎ヶ崎

など月1回程度開催される。

内閣府が1日付で発表した「生涯学習に関する世論調査」によると、この1年間に文化活動や趣味、スポーツ、資格取得などの生涯学習をしたことがある」と答えた人は57・1%に上った。

2008年の前回調査より9・9%増え、1988年から今回を含めて6回実施した調査で過去最高となつた。「していない」は前回から8・9%減の42・5%だった。

高齢化社会の到来を受け、政府は生涯学習の振興に取り組んできた。

文部科学省の生涯学習推進課は「若い人を中心に学び直す必要を感じる人も増えており、生涯学習のニーズは高まっている」としている。

内閣府調査最

内閣府調査最</p